



第66号 2005年11月

発行：萩ネットワーク協会

〒758-8555 山口県萩市大字江向510 萩市役所広報課内

TEL0838・25・3178 FAX0838・26・5458

萩ポータルサイト「萩・情報の駅」

<http://www.city.yamaguchi.jp/portal/>

夜の城下町を3,000本のろうそくの明かりで照らし出すイベント「萩・竹灯路物語」が10月1日から10日間、今年初めて開催された。菊屋家住宅や高杉晋作誕生地、木戸孝允旧宅などが立ち並ぶ国指定史跡「萩城下町」や武家屋敷風の萩博物館周辺の約1.1kmに萩特産の孟宗竹もうそうを並べた。白壁の旧家が続く町並みが幻想的な雰囲気に包まれ、和服姿の女性がそぞろ歩くなど多くの市民、観光客で賑わった。

主催した実行委員会会長の久保孝文さん(61歳・萩市土原)は「菊屋・江戸屋横丁だけでなく伊勢屋横丁でも・・・、竹灯路の数を増やして・・・、10月の土・日曜日には開催して・・・、など多くの反響がありました。夜の萩観光の目玉として来年からも続けていきたい」と語り、秋の恒例イベントとなることが期待されます。

秋の新しい観光

たけとうろ 幻想的な竹灯路



秋のイベント情報	P2
小千谷市の西軍墓地(一坂太郎)	P2
「長州ファイブ」映画化決定	P3
イカ釣り漁師「三隅信一」(中津嘉和)	P4
ズームアップ 東京須佐会「清地治正」	P5
須佐湾エコロジーキャンプ場「河村ゆみ子」	P6
道の駅弁当「増山真吾」	P7
旬の味覚便り「のどくろ」	P7
特集 道の駅	P8、9

目次

高校再編、萩国際大学	P10
萩おもてなし大賞(むつみ、福栄)	P10
同窓会だより	P11
阿武町、会員だより	P11
夢追人 福の里企業組合「服部登美枝」	P12
追悼 陶芸家 松野龍司氏	P13
萩博物館・浦上記念館だより	P13
情報アラカルト、新規会員	P14、15
萩沖の島々を巡る⑥【大島Ⅱ】	P16

秋のイベント情報

秋時代まつり

■11月12日(土)
午前10時～ 長州奇兵隊パレード
／萩城下町
午前10時～ 幕末衣装体験／青木周彌旧宅
午前11時～ 午後1時30分～ 長府藩櫓木流砲術実演／萩博物館
■11月13日(日)
午前9時30分～ 民謡「男なら」披露／萩城跡ほか
午前10時頃～ 萩大名行列／萩市内
午前10時30分～ 岩国藩鉄砲隊実演／萩城跡ほか
午後1時～ 秋時代パレード／萩市役所～金合神社
【参加団体】毛利歴代藩主、岩国



新「秋市」誕生記念
萩ふるさとまつり
11月12日(土)・13日(日)
萩市役所周辺・萩市民館

藩鉄砲隊、長州奇兵隊、川島聖講、古萩町大名行列、平安古備組ほか

■問い合わせ 萩市観光課
(0838・25・3139)

新「秋市」誕生記念 萩ふるさとまつり

◆11月12日(土)
午前11時～ 新「秋市」誕生記念式典／萩市民館
午後1時～ 地域バラエティーショー／萩市民館
◆11月13日(日)
午後1時～ 地域対抗のど自慢大会／萩市民館
午前9時30分～ 長州とことん総踊りin萩／萩市役所第3駐車場ほか

◆11月12日(土)、13日(日)
午前10時～ 国際物産フェア／明倫小学校体育館

■問い合わせ 萩市地域調整課
(0838・25・3359)

萩ものしり博士検定

萩のまちにある自然や歴史・文化などを楽しく学びながら、萩のことをよく知っていたいただくための検定です。

とき 11月27日(日) 午前10時30分～
ところ 明倫小学校(旧藩校明倫館の有備館)
■問い合わせ 萩博物館
(0838・25・3166)



萩ものしり博士検定
検定問題集 発売中!
(15ページ)

萩城下町マラソン

アテネ五輪マラソン代表選手国近友昭選手が参加します。
とき 12月11日(日) 午前10時～午後0時30分
コース 萩ウェルネスパーク～指月公園折り返し
種目 ハーフマラソン(21.0975km)、10km、5km、2km、ファミリー(2km)
■問い合わせ 萩市スポーツ振興課
(0838・25・7311)

異郷に眠る長州兵よ、安らかに

一坂太郎(萩市特別学芸員)



戊辰戦争で長州軍の主力だった萩藩の奇兵隊・干城隊と支藩長府藩の報国隊は、北越方面で戦った。私が調べただけでも現在新潟県内には、戦没した長州兵の墓が200基から現存する。うちの70基余りが並ぶ小千谷市船岡山招魂場が、昨年の秋の中越大地震で大きな被害を受けた。参道は倒れた樹木で塞がれ、墓碑の大半は倒れたり折れたりした。

見かねた有志の方たちは「小千谷北越戊辰史跡復興支援の会」を結成し、修復のための募金活動を実施。その結果、本年9月から復旧工事が始まり、10月16日、修復完成を記念する式典が催された。



当日は野村興児萩市長も駆けつけ、「敵である兵士を人道の見地から手厚く葬り、墓を大切にしてくれた方々に心から感謝申し上げます」と挨拶。関広一小千谷市長らとともに「慈」と題された復旧記念碑を除幕した。うかがったところによると、墓碑の修復を担当したのは、これまた長州藩にとって「敵地」だった福島県相馬市の業者であるとのこと。まさに恩讐を越えた、さまざまな思いが成し遂げた史跡保存であった。

「長州ファイブ」 映画化決定!

幕末、近代国家の建設を目指し、英国に密航した長州藩の5人の志士「長州ファイブ」を描く映画の制作が決まりました。12月中旬からの萩ロケをへて、来年秋から山口県内で先行ロードショー、2007年春から日英同時全国公開予定です。



◆長州ファイブとは―

約150年前、ペリーが来航し、日本国内は開国が攘夷かの大騒乱となり、保守、革新の熾烈な戦いがおこりました。

松下村塾に源を發した5人の志士は、国の将来を憂い、近代国家の建立を目指して国禁を犯し命がけで密航し、ロンドン大学などで学びました。

当時のイギリスの新聞は彼らを「長州ファイブ」と呼び、ロンドン大学には彼らが名前を記した学籍簿や、1993年に建てられた石碑が残っています。

その5人の志士とは、内閣制度を創設して初代総理大臣となった「伊藤博文」、新橋―横浜間の鉄道を建設して『鉄道の父』と呼ばれた「井上馨」、新政府で多くの官職を歴任した「井上馨」、東大工学部、日本輿

咄協会を創設した「山尾庸三」、造幣事業に尽力した「遠藤謹助」。帰国後は、鉄道、造幣、造船、鉱業などの基幹産業を興し、新しい制度を採り入れ、明治国家の礎を築きました。

◆映画の内容は―

映画「長州ファイブ」は、ANA機内誌「翼の王国」(02年12月号)に掲載された「旅の始まりは『長州ファイブ』だった」を原案に、構想3年を経て、映画化が決定されました。長州ファイブの英知と勇氣と若き情熱の燃焼を青春グラフィティとして描くものです。

メガホンを取るのは、戦場カメラマンの一人瀬泰造の生涯を描いた「地雷を踏んだらサヨウナラ」や、長門市の詩人金子みすゞを描いた「みすゞ」などの作品で知られる五十嵐監督。また、長州ファイブを演じるのは、松田龍平さん(下関市出身の俳優・故松田優作さんの長男)など、次の方々です。

▽山尾庸三役 松田龍平 (「御法度」、「青い春」、「NANA」など)

▽井上馨役 山下徹大 (「八丁堀の七人」、「蟬しぐれ」など)

▽井上馨役 北村有起哉 (「カンゾー先生」、「義経」など)

◆意気込みを語る五十嵐監督(右)
◆山尾庸三役の松田龍平さん(左)



▽伊藤博文役 三浦アキフミ (「ウォーターボーイズ」など)

▽遠藤謹助役 前田倫良 (「トーマの心臓」、「月の子」など)

また、原田大二郎(大村益次郎役)、寺島進(高杉晋作役)等が出演します。

五十嵐監督は、制作について、「武骨ながら守りに入らず、何かをつかみに行った若者たちの青春を映したい」と語りました。また、主演の松田さんは、「長州ファイブが生きた時代を想像し、楽しみながら演じたい」と話しました。

◆映画の制作は―

映画は、12月中旬にクラシクインシします。監督は、撮影の3分の2を萩市で行うと話しています。呉服町、久保田家住宅や藍場川周辺で撮影されます。

また、イギリスのロンドン、グラスゴーなどでも撮影され、来年1月末にクラシクアップする予定です。

10月11日に、萩市と山口県庁で制作発表会が行われました。萩市で行われた発表会では、制作委員で、長州ファイブ萩サポーターの世話人、池本和人さん(池本整形外科)の呼びかけで約150人が参加。池本さんは、「この映画は萩だけでなく下関、山口県にとっても、日本にとっても良い映画となると期待している」と話しました。

問い合わせは、萩市観光課内フィルムコミッション「萩ロケ支援隊」(0838・25・3139)へ。

映画の前に...

「長州ファイブ」を

もっとよく知りたい方へ

萩ものがたり⑥「長州ファイブ」を追って」では、著者の宮地ゆうさん(朝日新聞記者)が、ロンドン、スコットランドなど、長州ファイブの足跡をたどり、5人を紹介します。申し込みは、萩ものがたり事務局

(0838・25・3323)。



600円

新しい人生は イカ釣り漁師 団塊世代の元サラリーマン部長の挑戦

三隅 信一さん (萩市須佐在住、57歳)



萩ケーブルネットワーク
制作部顧問 中津 嘉和

戦後ベビーブームの団塊世代が2、3年後にどつと退職する話題に関心が集まっている。その数は人口の5.5%にあたる700万人とか。萩市でも過疎の解消に団塊世代の退職者誘致に対策をねっている。ところで、そのさきがけといつてもよい団塊世代の元大手家電メーカーの部長が、繰上げ退職して萩市須佐漁協で新しい人生に挑んでいる。

ヤマタノオロチを退治した須佐之男命(スサノオノミコト)神話から地名が起ったという萩市須佐地区は風光明媚な須佐湾がよく知られている。その須佐湾の漁港船溜まりに、慶葉丸という6tの中古漁船が現れたのは2002年の春。船主、船長は松下電器に31年勤めて繰り上げ退職した三隅信一さんだ。「平均寿命が長くなっている。60歳で定年をしても健康であれば、あと20年くらいは何かをして生きていかなければならない。そんなことを考えた時、できれば一つの人生でなく欲張りなんです。もうひとつの今まで自分が経験したことのない人生を送ってみようと思った。冒険ですけどもだからこそ、そこに人生の面白みがあるのではないかと思った。多少、無茶かもしれないが、思いきって決断した」

長年連れ添った妻の冷子さんは「本人は漁師に憧れがありましたから、生活が成り立つ、成り立たない以前の問題で夢が追

えるというところは、ある種羨ましいところがある」

三隅さんは松下電器を退職した時、大阪府門真市にいたが、漁師になる場所については、妻冷子さんの実家がある山口県の海が視野にあった。それというのも、三隅さんは鉱山に勤めていた父親の関係で岐阜県の神岡に生まれ、小・中・高校も福井県下で転々、定住のふるさとに恵まれず、新しい人生とわがふるさと獲得が望みであった。

サラリーマン時代の三隅さんは魚釣りが好きで20年以上海釣りをしてきた。釣りバカ日誌を思わせるベテランだが、職業となればそうはいかない。小型船舶一級免許を取得したあとは、約1300万円の中古船購入、萩市の水産事務所に新規就業の相談。「イカとひれものどちらが可能性はありや」「なかなかひれものはむずかしいですよ。可能性ありとすればイカの方では」のアドバイスを受ける。「イカ釣りがやさしいと思わ

ないが、いかは一年に3回産卵して個体数が多いように思う。それにイカリをうったり、パラシュートをうったり操船の技術がひれものど比べると私でも一所懸命勉強すればなんとかなると思う」、決断は早かった。

山口県漁協須佐支店の宅野勤支店長は「地区外からの新規就業者は受け入れに不安があった。まず漁村の環境に慣れてもらえらるか。三隅さんの経歴を見て、180度環境が変わったのも、漁業だ。実際に様子を見ていくと、それなりに漁業者となじんで自分からも声をかけて漁村部落に住んでいる。漁協としてはこの漁村で骨を埋めるくらいの覚悟でやつてもらえたらと思いい、後継者不足の面でも刺激になっている」

須佐支店の組合員は167人。平均年齢60歳で後継者は不足している。年間操業日数は平均200日。たて網、刺し網、潜海、一本釣りがあつて、80人が一本釣り、うち60人がイカ釣りに当たる。イカの水揚げは03年が323ト、3億円。04年が114ト、2億100万円。須佐支店では平成12年から漁業振興策として活イカのブランド化に取り組み。須佐之男命にあやかった「男命いか」はブランド名の商標登録出願中である。

一本釣りの船団長の佐々木寛さんは三隅さんとは同じ年で、なんでも率直に話せる仲。

佐々木さんは「まだ2年そこそこですから、漁師としては今からですよ。本人は全力でやっているの、船団が助けるような状態でやっている。」と話す。

松下電器時代は物流統括部企画部長などを務めた三隅さん。当然、新しい人生の漁業でキャリアを生かせる提案もし、漁業者の刺激になっている。「男命いか」の商標登録、漁協ホームページの立ち上げに積極的に取り組む。

3年目の新米漁師、水揚げはまだ経費の方がかかる赤字路線。「漁師には定年がないから気力、体力が続く限り漁をしたいと思います。晴れた日は沖に行き、しける日は本を読んだり自分の好きなことをする。そういった人生を送れたら最高に素晴らしいと思っっています」





東京須佐会 会長

きよち はるまさ
清地 治正 氏

(東京都在住、萩市須佐出身、

昭和28年秋高校卒、72歳)

合併を機に須佐が観光萩の一端を担う、観光の町として全国に知れわたる日が来ることを願う



—東京須佐会について

恒例の東京須佐会は今年で第13回目を迎え11月19日に高輪和彊館で開催される予定です。

そもそも本会の歴史は古く昭和40年前後、高度経済成長の時代、山口県阿北の小さな町から大都市東京に出てきた田舎者同

士が「元気でやつちよるかいのう。面倒みてやろうかのう」などとお互いに励まし合い、助け合うと相集う所から発足した20名余りの会合でした。その中心として物心両面でご尽力下さったのが浦西の中野清吉氏でした。初回会場は芝白金の藤山雷太氏の屋敷(今の東京ミヤコホテル)でした。平成5年老若男女

を問わず須佐出身者を広く糾合した会にしようと手分けをして同郷者を調査し、名簿を作成して会への参加を募り、第1回の東京須佐会としてスタートしました。

初代会長には多賀靖氏が選出されました。主な活動としては名簿の発行、情報交換、親睦を兼ねた会合を年1回開催(町からは町長、議長、企画課長なども出席。今年野村市長が出席予定)。

通信費として年会費5000円を拠出していただいています。現在、会員数は約450名。旧須佐町の人口が約3600余名ですので12%に当たります。

—萩への一言

一昨年3月5日、日本テレビのみのもんたの番組で『名勝及び天然記念物須佐湾』が10分間に渡って全国放映されました。1928(昭和3)年3月5日に国から指定された日であると

報じ、美しい須佐湾は東の松島湾にも劣らない風光明媚な景色であると紹介されました。またご承知の通り北長門国定公園にも指定されています。

ところで、我が郷土も本年3月6日の広域市町村合併で萩市

大字須佐、大字弥富となりました。これを機に須佐が観光萩の一端を担う観光の町として全国に知れわたる観光客の溢れる日が来ることを願っています。そのためにも、合併前の須佐のホームページ「観光須佐」を、萩市のホームページに是非加えていただきたいと思います。

—私の近況

平成12年日本カーリット株を退社して5年。趣味のガーデニングとスポーツクラブ通いが主な日課です。また郷土史の研究仲間に加えていただき、毎月一回の勉強会に参加するのも楽しみの一つです。現在江戸末期の須佐藩主・益田親施侯(第33代)を中心とした蛤御門の変の古文書に取り組んでいます。

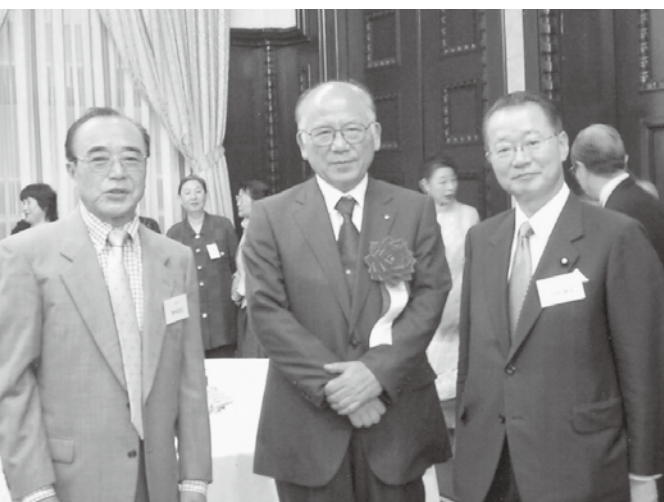
—萩の思い出

萩高時代、山陰線で三年間汽車通学しました。堀内の北校舎には玉江から渡し船で(常

磐橋が壊れていたため)、また、江向の南校舎へは萩駅から。帰路は徒党を組んで何時も東萩駅経由。戦後間もない時期で下駄履きの者が多く、よく鼻緒が切れ裸足で走つてようやく汽車に乘れた笑い話のような経験もありました。

【プロフィール】

清地治正(旧姓仁保) 1933(昭和8)年生まれ。53年萩高卒、60年日大経済学部卒。日本カーリット入社。89年に子会社京阪研磨材、97年日本カーリット監査役、00年退社。



▲羽毛田信吾さんの宮内庁長官就任を祝う会(今年6月)



▲キャンプ場の
インフォメーションボード、
もちろん河村さん作

インタビュー

須佐湾
エコロジーキャンプ場
管理人

河村ゆみ子さん

(萩市須佐在住、51歳)

◀管理事務所前にて



▲全てのキャンプサイトから、日本海が見渡せる

素晴らしいロケーション に負けないように。

須佐湾エコロジーキャンプ場の一番の強みは、全サイトから日本海が見渡せる素晴らしいロケーション。この強みに負けないように、広い敷地の除草作業やキャンピンの清掃に、スタッフ一同で取り組んできました。先日もキャンピンに宿泊されたお客様から、清掃の行き届いた室内や磨き込まれた調度品を見て、「とても10年経っている建物には見えませんね」と、嬉しいお言葉を頂きました。

このキャンプ場、もともとこの敷地の地権者だった地元の方々が運営主体として組合を設立。私自身も含めて、日常の管理スタッフも全員地域の方々、

まさに地域で運営するキャンプ場なのです。

オーナーやスタッフ自身がこのキャンプ場を可愛がって、いつもきれいに磨きをかけておく、それによって訪れるビジターが美しい自然の中でゆったりとした時間を満喫することができ、そのことを「おもてなし」の一部と考え、みんなで力を合せて頑張っていきたいと思っています。

作品は倉庫に大切に 保管するのではなく、 有効活用

一方、以前から美術絵画分野に興味関心が強く、平成3年から毎年欠かさず山口県美術展に出品を続けています。優秀賞を筆頭に佳作入選多数など、これまでで落選したのは3回だけと、それなりの成績です。

最初のうちは水彩画が中心でしたが、近年は絵画にとらわれず、いろんな造形にチャレンジしています。例えば、5000個の石で作ったネズミ、製作した作品をそのまま倉庫に眠らせるのではなく、キャンプ場を訪れる子供たち向けのゲームに使ったり、記念品として子供たちにプレゼントしたりしています。

また、300枚の手書きポスト

トカードを作品にしたこともあります。これも、お客様へのお礼状やお詫び状に有効活用しています。1枚1枚手書きで作ったポストカードなので、普通のハガキより多少は気持ちを含められると思います。

さらに、毎年「エコキャン祭り」というイベントを実施していますが、その舞台のバックに掛ける背景幕にも、展覧会への出品作品を使ったりしています。結構、創作は労力の掛かる仕事で、苦しみも多いのですが、このように有効活用できることも含め、最近は「楽しんでやらないと損」という気持ちになっ

ています。シーズンオフの時期には、この管理棟を地域の人たちに開放し、使い残しの絵具や材料をご提供して、勝手気ままな工房のように使ってもらっています。地域の方々とのんびり過ごす時間も尊いものだと感じています。

プロフィール

1954(昭和29)年7月阿武郡小川村生まれ、地元の小中学校を経て、島根県立農林高校卒業。75年みやこ編物(株)入社、96年から現職。91年より、山口県美術展に連続出品し、優秀賞・佳作・入選数々、徳山市美術展では大賞2回受賞。



萩・阿武地区の豊かな食材を観光に活かすべく、萩・阿武地区8つの道の駅で、「道の駅弁当」イベントを立案・実行。仕掛け人の増山真吾さんにお話を聞きました。

インタビュー

『まるごと特産 道の駅弁当』で、萩の味覚をPR!

萩市青年会議所
社会開発委員会委員長

増山真吾さん

(萩市川島在住、32歳)

【プロフィール】

1973(昭和48)年1月萩生まれ。91年萩高等学校卒、93年日本プリンティングアカデミー卒(東京都)、同年光成社印刷(株)入社(東京都)、97年有マシヤマ印刷入社。趣味はスポーツ全般。

■「道の駅弁当」で萩の食をPR
萩市広域は、地域の大半を占める農地・森林が育む「山の幸」、豊かな日本海の「海の幸」と、まさに食の宝庫。地産地消といわれている時世の中、この宝をうまく萩の活性化に利用できないかと思ひ、今年の6月に「萩の味ネットワーク」のタイトルで、各種特産品の通信販売にチャレンジ。そして今回は萩青年会議所社会開発委員会の事業として『道の駅弁当』企画を実施しました。現在この地域には7つの『道の駅』と1か所の農産物加工販売所があり、今後の観光を考えていく上で、『道の駅』(点と点)を、「食」というテーマでつなぐ事により、新しい観光客の流れが出来るのではないかと考えました。

■素材を活かしたオリジナル駅弁
各道の駅が地区の特産素材を使用し、特徴ある手作り駅弁を新たに商品化、10月9日を皮切りに年内12月18日までの土・日・祝日で限定販売するというもの。商品化された弁当は、まさに『まるごと特産』、しかも作り手の気持ちがかもった弁当で、その出来にとっても満足しています。マスコミ各社の取材や問い合わせも多く、今回の試みに手ごたえを感じています。
同時に事業の一環として、萩を代表する「萩の瀬付きアジ」を使った創作料理を、テレビでお馴染みの吉田靖彦氏に依頼、市内飲食店や旅館等に働きかけ、萩の名物料理となるように定着させていきたいと考えています。



萩産旬の味覚便り 日本海の宝石のどくろ

北海道名物「キンキ」に負けない味

今回はアカムツ、日本海西部を代表する高級魚種で、口から喉にかけての内側が黒いため、萩をはじめ山陰地方では一般に「ノドクロ」と呼ばれています。
若狭湾沖から山陰西部が主産地で、萩では小畑漁港から多数の小手繰り漁船(小型底引網)が出漁しています。大きさは20cm程度が標準サイズ、30cmオーバーの大型も水揚げされています。北海道名物の超高級魚「キンキ」似た味と食感で、近年食通の間で人気急上昇中の魚種。美しく輝く朱色の魚体をイメージして、松江方面では「日本海の宝石」のキャッチフレーズで売り出されています。



▲朱色の輝く魚体が美しい、まさに宝石

調理に手間がかからずお手軽、しかもお魚料理が苦手という方やお子様にも喜ばれます。DHAやEPAも逃げないので、栄養的にも良い食べ方です。

●一夜干しも人気商品

旬は秋から冬とされますが、深い海に住む魚なので、夏場でも脂の乗りは良く、通年美味しく召し上がることができます。かえって夏場は価格も安く、狙い目かもしれません。鮮度の高いノドクロを開き一夜干しにした商品もお勧め。20cm級が1箱に5、6枚入って、1500円程度の売価で販売されています。高級魚種であること、そして見栄えも良いので、お土産や贈答用として、冬場には結構大量の注文が入っています。

●お勧めはホイルの包み焼き

こつてりと全体に脂の乗った白身は絶品。脂もしつこくなく、とっても上品。大型で新鮮なものが手に入ったならば是非お刺身で。塩焼きや煮付けも定番。お勧め料理法は

▼お勧めのホイルの包み焼き



◀隣接の「新鮮館たまがわ」で人気の「農産品のセリ市」が開催される。



▲六角形の屋根が印象的。物産館の商品数・食事処も多く充実している。

大根・トマトなど地物野菜と、猪肉が名産！

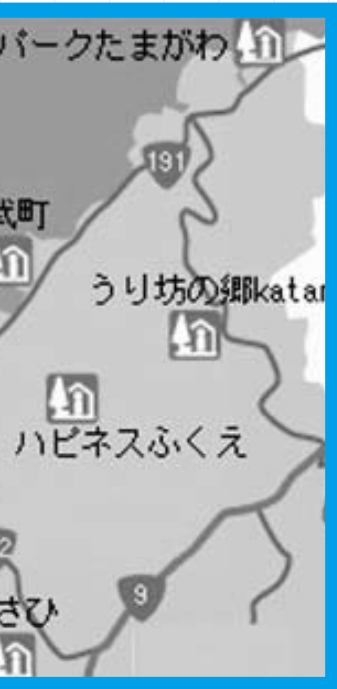
うり坊の郷 katamata



▲名物の猪肉。冷蔵ショーケースにスライスしたバラ肉がパック販売されている。

◀萩から津和野に抜ける道筋の三叉路に位置し、駅から周囲の山々を見渡すことができる。

道の駅名称の「うり坊」はご存知のとおり猪の子供のこと。駅のある旧むつみ村・片俣地区は、良質米の産地であるとともに、だいこん、トマト、そして猪肉の産地として有名。生産者直送の新鮮野菜に人気があるほか、名産トマトを使用したケチャップや焼肉のタレ、そして夏季限定販売のトマトソフトクリームなど加工品も充実。レストランでは、珍しい猪肉料理が楽しめる。



萩市内に6つの道の駅

全国道の駅・発祥の地！

阿武町



▲敷地も広く、各建物もゆったりとした配置。駅裏の空地やテラスからは、日本海に沈む夕日が見られる。

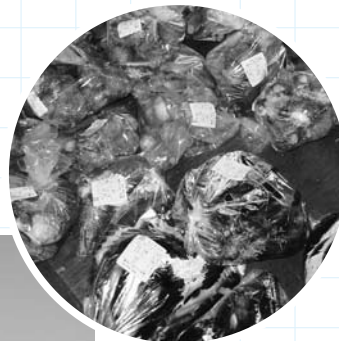


◀道の駅発祥の駅の看板。発祥交流館では、自然体験プログラムに力を入れている。

平成5年4月に道の駅第1号登録証が交付された全国の道の駅発祥の駅。新鮮な農林水産物や特産品の直売所をはじめ、食堂、温泉、温水プール、公園、情報センター等が整備されている複合駅。特筆すべきは、「無角和牛」、阿武町産の希少な伝統和牛、ジューシーでヘルシーな赤身が特徴。敷地内の食堂で「無角和牛うどん」などが賞味できるほか、直売所でもブロック販売されている。



◀昔の公設市場をイメージした木造建物。隣接の魚市場を含め駐車場収容250台と大規模な駅。



◀人気の地物野菜市。商品すべて、生産した農家の名前がラベルで貼り付けられている。

新鮮地物野菜の直売市が人気！

ハピネス ふくえ



▲鉄骨による造形的な屋根が印象に残る。野菜直売所の後には大きな温室もある。

農産物の宝庫・福栄エリアに位置し、早朝より開催される地物野菜・果物の青空市が人気。品種・販売量とも多く、地元住民はもちろん、市外からも新鮮野菜を求めて来場する方や、飲食業者などプロが食材仕入れに訪れる姿も。特産品販売所では、昔懐かしいかき餅やかりんとうなど地元主婦グループによる手作り特産品が数多く並び、品定めを楽しめる。

NEWS

(株)リクルートが発行する国内旅行情報誌「じゃらん中国版」が行なった道の駅人気投票（中国地区）で、道の駅／萩しーまーとが5位にランクイン。中国5県には70か所を越える道の駅があり、山口県内で上位に入ったのは萩しーまーとのみ。

道の駅／萩しーまーとが中国地区道の駅ランキング第5位に

新鮮野菜のセリに参加できる！

ゆとりパーク たまがわ

特産売場・直売所・食堂・休憩所など、規模も大きく充実した駅。特筆すべきは、毎週火・木・土・日の午前9時から開催される一般客参加のセリ市。新鮮な野菜果物などの地元特産品を、セリ方式で販売していくもの。自らセリに参加できる楽しさと、新鮮な産品が格安で手に入るとあって、たくさんの来場者で賑わう。四季を通じて各種イベントを開催、近隣の田万川温泉とセットで訪問する観光客も多い。

ここ「新鮮館たまがわ」で農産物のセリ市を開催している。セリ市開催日は、週4回。どなたも参加できる。火・木・土・日。午前9時から開始です。



吉田松陰と出会う駅

萩往還公園



▲物産館の運営は萩物産協会なので、海産物を中心に萩名産の数々が揃う。



▲明治維新の志士たちの像

萩への入り口、萩有料道路料金所にある道の駅。物産館・食堂・休憩所のほか、松陰記念館（入場無料）が併設される。敷地内には吉田松陰をはじめ、松下村塾に学んだ松陰門下生10名の像が点在、記念館内には貴重な資料展示や、松下村塾内部を再現したブースがある。萩への入り口として、是非立ち寄って欲しい駅。

市町村合併で萩市内の道の駅がなんと6つを数えることになった。全国でもひとつの市町村に6つの道の駅というのは、多分トップクラスだと思われる。それぞれの駅が、地域の特産品や自然・文化を活かし、特徴ある駅作りを行っている。萩市内の6駅と阿武町の1駅を巡ってみた。



▲右側の休憩スペースで野菜市が行なわれる。

萩城下と三田尻（防府）を結ぶ道が萩往還。駅のある佐々並はかつて交通の要衝として栄え、藩主の休泊場所である御茶屋もこの地にあった。いわば、藩政時代から駅があった場所。萩～山口の中間地点にあり、休憩・食事で立ち寄るドライバーが多い。地元農産品の産直市が人気。物産売場内のイチ押し商品は「佐々並とうふ」、藩政時代からの味を現在に引き継ぐ特産品。

今も昔も、萩往還の休息所

あさひ



←一番人気の佐々並豆腐。昔ながらの製法を守る「昔とうふ」で、常連客も多い。



魚市場のある道の駅

萩しーまーと

萩漁港・魚市場に隣接し、年間150万人の来館者を迎える大規模な道の駅。萩沖の魚介類や水産加工品を中心に、地物野菜果物や和牛、各種農産加工品など、萩地区の味覚が集結する産直市場。物産館で購入した魚介類をそのまま館内レストラン持ち込んで、好みの調理法で楽しむ「勝手御膳」は、全国道の駅でここだけのユニークなサービス。

農産物加工販売所
四季折々の野菜がそろう

つつじ

萩と山口を結ぶ国道262号沿いに昨年オープン。新鮮で安心な野菜を数多く品揃えしており、野菜の宝庫。毎週日曜日には朝市も開催。「農家レストラン」も好評です。

萩商業・萩工業

来年4月に統合し「萩商工」に

県立高校再編として、萩商と萩工を来年4月に統合し、校名を「萩商工高等学校」とすることが、9月県議会でも可決され、決定しました。65年の分離以来、41年ぶりに「萩商工」が復活します。

山口県教育委員会では、社会の

変化や生徒ニーズの多様化、少子化の進展に対応するため、9月に3学級以下の小規模校の統合などを示した「県立高校再編配備計画」（06～09年度）を策定し、3校の統合はその第一弾。長門市の大江高校と水産高校の統合も検討され

ています。

萩工業高校には機械、電気などの設備が多いため、現在の萩工に所在地を置き、来春の新入生から萩商工の生徒になります。現在の1年、2年生はそのまま現在の高校に在籍するため、07年度までは両校は存続します。部活動は萩商

工になっても現在の活動は継続し、06～07年度については、現高校と新高校の合同チームで活動していく予定です。

今回の再編で、1965年に萩商と萩工が分離して以来、41年ぶりに当時の校名が復活することになります。

【萩商工高等学校の募集定員】
総合ビジネス科（70人）、国際情報科・機械科・電気科・建設工学科（各35人）計210人

高校再編

再生計画案を東京地裁に提出

07年4月に「ライフデザイン学部」設置へ

10月11日、民事再生手続きを進めている萩国際大学を運営する「学校法人萩学園」が東京地方裁判所に再生計画案を提出しました。計画案は、07年4月に「ライフデザイン学部」（1学年200人）を開設し、保育士や社会福祉士など子どもや高齢者の福祉に貢献できる人材育成を目指す内容となっています。

来年1月予定の債権者集会以て計画案が承認されて同地裁が認可すれば、来年6月にも文部科学省に新学部設置を申請します。また、計画案とは別に、08年度に理学療法士などの資格を取得できる専門

学校を大学内に設ける構想があることも明らかにしました。大学の名称変更も検討しており、来年6月の新学部設置の申請までに決めるということです。学生募集については、来年11月に正規の学生募

集を始めるとしています。

金融機関を主とした債権者14人（総額38億8000万円）については、債務免除など含めて今後協議していくということです。

村本理事長は、安定的な運営には定員の90%以上の充足が必要との見通しを示した上で、「福祉分野の志望者は多く、地域も福祉に携わる人材を求めていると思つ。地元から出来るだけ多く進学してほしい。地域の大きな期待に沿えるよう再生させたい」と述べました。

萩国際大学

萩のおもてなし むつみ・福栄地域でも

10月8日、萩を訪れた観光客に真心のこもったおもてなしをしている個人・団体をたたえる「萩おもてなし大賞」が、萩おもてなし推進協議会（萩市、萩ケーブルネットワークなど）から発表されました。

おもてなし大賞

むつみ中学校と
むつみ地域の人々

むつみ地域では、平成5年から、都市部から修学旅行生を受け入れて農業体験を実施しています。都市部と学校間の交流を深め、農家とふれあいながら農村の役割や文化などを学習することが目的。

今年、6月に大阪府都島区の市立桜宮中学校の3年生150人が訪れ、むつみ中の生徒（43人と一緒に、農家の人たちの指導を受けながら、田植えや大根の収穫、

特別賞（県知事賞）

平蔵台交流ツアー
実行委員会（福栄地域）

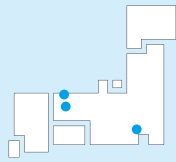
福栄地域の標高400mに広がる高原「平蔵台」。芋掘りという農業体験を通して自然を満喫してもらおうと、地元の人たちが毎年秋に「いも掘りフェスタ」を開催。毎年約200人の参加者のうち、リピーターが8割。サツマイモの収穫のほか、新米と地元鍋での昼食や、マツタケがあたる抽選会も行なう。

実行委員会代表の蔵増裕一さん



▲むつみ地域の農業体験

同窓会だより



10月15日 たちばな会総会 萩商業高校体育館(萩市)

萩商工高等学校が設置される。この地での萩商は終わりを告げるが、学校施設の跡地は有効に使用してほしい」と挨拶されました。

約600人が出席。総会では川原輝彦理事長(昭和31年度、萩工と統合して



会場いっぱい懐かしい顔

10月22日 東京指月会 日本工業倶楽部(千代田区)

208人出席。会長は10年務められた三隅田良吉さん(萩中42期・昭和17年卒)から、浅野哲さん(萩中44期・19年卒)に交替することが総会で正式決定されました。三隅田さんは会の名譽顧問に、浅田さんは公立昭和病院の名譽院長であり医学博士、日本医学界の重鎮です。会場では、母校出身で活躍されている羽毛田信吾さん(宮内庁長官)、松本実さん(俳優)などビデオで紹介されました。また、全員に当たる福引で盛り上がりました。受付など担当したのは引受期の萩高27期(50年卒)の皆さんでした。今年卒業したばかりで東京生活が半年の初々しい大学生も10人参加、会場に花を添えました。事務局長は三浦孝夫さん(43年卒)。



▲左から溝部さん、難波さん、加田さん(今年春の卒業生)

10月18日 山口指月会総会 セントコア山口(山口市)

でも話ができる旧友と会える同窓会は貴重なこと。これからも心の中に名簿を作って、10月18日を忘れずに、一人でも多くの人に参加してほしい」と挨拶されました。

懇親会では、校歌斉唱、トランペットとピアノの共演、また恒例となったビンゴゲームが行われ、大いに盛り上がりました。事務局は山口県長門健康福祉センター勤務 西公男さん(42年卒) 083・922・6174

78人出席。萩高校前身の萩中学校の開校記念日、10月18日に毎年開催。東章会長(昭和32年卒)が「何



▲トランペットを演奏する田中文夫県議

阿武町

天高く、牛、肥ゆる秋
無角和牛まつりに4000人

道の駅「阿武町」の秋の大イベント「無角和牛まつり」が、10月9日開催されました。

これは、阿武町の特産「無角和牛」の美味しさ、安全性を広くPRすることを目的に毎年開催しているもので、特性のキウイ果肉入りタレで食べる無角和牛の焼肉コーナーや萩市のケーキ店ポ・ヤシロのシェフが腕を振るったステーキコーナーは長蛇の列ができるほど人気を集めていました。

また、地元漁師が主催する奈古新鮮活魚市や漁船クルーズ、地元農協・漁協による野菜、魚



▲行列の出来た無角和牛のステーキコーナー

介類の販売や模擬セリ、掘り出し物満載の道の市などが軒を連ねたほか、ゲームコーナーやアユのつかみどり大会なども開催され、訪れた4000人は、阿武町の食欲・行楽の秋を満喫することができました。

会員からのお便り

めーるぼっくす

○林 賢治(埼玉県川越市)

「萩・竹灯路物語」は、面白そうな企画ですね。次号はぜひ写真や、訪れた人のコメントを多く紹介してください。

「萩沖の島々を巡るシリーズ」興味を持って見えています。なかなか訪れる機会がないので、ぜひ一度は訪れてみたいと思います。

また合併になった町村のことも歴史的なことも含めてとりあげてもらえたらと思っています。

○野崎靖央(東京都大田区)

萩ネットワーク毎号ご送付ありがとうございます。ここ数年訪ねておりませんが、現況が良く分かり重宝しております。長く続いた暑さにも負けず、何とか元気しております。



福の里企業組合代表理事

服部登美枝さん (51歳)

(萩市福井上在住)

福栄地域にて、地元産農産物を素材に数々の特産品を開発、中小企業庁長官賞など名誉ある賞を次々と獲得してきた特産品開発グループの代表・服部登美枝さんにお話を聞きました。

小さな村の特産品開発、

今年で6年目

福の里企業組合の母体・福栄村商工会特産品開発グループが結成されたのは、平成11年6月のことでした。きっかけは、その2年前に開業した「道の駅ハピネスふくえ」で販売するお土産をつくらうと、地元有志が集まって会議を重ねるうち、地元で栽培されている農産物を使った商品を開発しようという

ことになったのです。

テレビで紹介され有名になった「福の里お炭つき」をはじめ、これまでに20品目以上が開発され、数々の賞を受賞、売上も伸びてきました。任意団体であったため、対外的な信用や税務上の問題など、様々な問題が生じてきました。そこで法人化を検討、福の里企業組合を平成14年に設立、特産品開発グループ代表であったこともあり、引き続き代表理事を務めています。

地元産にこだわり、

無駄を出さない商品作りを

地産地消の流れの中、開発する商品の素材はなるべく地元産にこだわるといのが一番の方針です。

たとえばハーブソーセージの場合、ハーブは休耕田で栽培していましたので調達できましたが、肝心の豚肉がない、それなら地元産の養鶏農家の鶏肉を使えば良いということになり、結果、全国でも珍しい鶏肉ハーブソーセージが誕生しました(現在は製造中止)。

それと、余りのものや捨ててしまう端材などを「もったいないの精神」で、何とか有効に活用できないかとも常々考えています。ヒット商品になった「福の里お炭つき」も、実は売れ残った野菜や、商品価値のない松ぼっくり・山に落ちていた木の実などが原料になっています。またジャムなどの製品も完熟して出荷できない果物を使ったり、果汁を絞ったあとの皮などを原料にしています。

そして気になる食品添加物のこと、素材に安心安全な地元産を使用しているも、食品添加物を多用するのでは、本末転倒、これからでもできるだけ添加物を抑えた商品づくりをしていきたい

いと思います。

事業の成功が、

周囲の皆さんへの恩返し

現在力を入れている商品は、自家製のもち米を使ったよもぎ餅。もち米1俵を無駄にするなど試行錯誤を重ねて、ようやく2〜3日はあの柔らかさを保ったお餅が完成しました。お陰様で商品の売れ行きはまずまずで、全て手作りのため注文に追いつかないこともしばしば。

特に秋はイベントが多く、これから毎週末のように各地に出かけ出張販売しますが、その仕込みで今もバタバタしています。今週末も東京の世田谷で開催される物産市に出店しますが、お客様の中には常連様もいて私たちが行くのを待っていてくださったり、試食して美味しいと誉めてくださったり、私たちの作った商品を喜んで召し上がって頂けることが、何より励みになります。

★プレゼント

記事で紹介したヒット商品「福の里お炭つき」のミニサイズを抽選で3名様にプレゼント。ご希望の方は、官製ハガキにて、萩ネットワーク編集部プレゼント係までご応募ください。締め切りは、11月30日まで。



▲福の里お炭つき かぼちゃや栗がそのまま炭に。お部屋のインテリアと脱臭に最適。全国地場産業優秀技術の製品表彰で優秀賞受賞など、受賞多数

これから先の夢ですが、正直ここ数年は365日年中無休の状態。こんなこと言ったら叱られますが、ゆっくり、のんびりしたいなあと思っています。その前に、お金を出して下さった出資者の方々、知恵と手を厭わず提供していただいた地域のみなさん、経営・販促の両面で支えていただいた商工会の皆さん、いろんな恩のある方々に、この特産品開発事業を成功させることによって、恩返しをしてからだとは思っています。

■プロフィール

1953年(昭和28年) 11月阿武郡佐々並村生まれ。72年県立山口農業高校卒業。75年兵庫女子短期大学保育科第三部卒業。福の里企業組合代表理事のほか、福栄村商工会女性部副部長、山口県地域活動連絡協議会理事、山口県農家生活改善士などをつとめる。趣味は手芸。

山口県

福の里企業組合

福栄



▲平成16年8月から稼働した専用加工場の玄関にて

陶芸家

松野龍司氏

萩焼陶芸家の松野龍司氏（椿大屋）が9月17日肺がんのため、宇部市の病院で亡くなられました。享年54歳。



萩市浜崎出身。1970（昭和45）年に萩高、72年に山口芸術短期大学を卒業。2年間の修行を経て、椿に緑栄窯を開窯。79年に日展に初入選（以後5回）、86年に日本現代工芸美術展現代工芸賞など数々の賞を受賞。

大学時代に学んだデザイン・彫刻を活かし、技法、素材は陶器や磁器タイル、ブロックを織り交ぜるなど自由な創意を發揮し、徳山特産御影石の黒い粉を混ぜて焼く手法を創案するといった既成概念にとらわれない創作活動で知られる。

また、施設を彩る陶壁、周南市文化ゾーンのシンボルモニュ

メントを手がけるなど壮大なスケール観を展開。

00年からは、萩ヨットレースのトロフィーを作成。毎回違ったイメージで作られる作品は参加者にも好評。

ものづくりが大好きで、物事を組み立てていく過程を楽しむ。縄文時代のお酒をイメージし、矢じりをモチーフにした酒瓶を作り、お酒は赤米を原料にしようと酒蔵に働きかけ、プロデュースに奔走。

また、自宅にミュージシャンや落語家を招き、集まった人々と萩焼で食事を楽しむなど、人との出会いや物など、あらゆるものに敏感。

「やりたい時にやりたいことをやる。一生懸命きちんと遊ぶ」と生前語られた松野さんの御冥福を心からお祈り申し上げます。



▲萩ヨットレース トロフィー

萩博物館だより

（☎0838・25・6447）

萩学なんでもBOX「グッドデザイン賞」



10月に、日本産業デザイン振興会のグッドデザイン賞（Gマーク）新領域デザインの部に選ばれました。

「萩学なんでもBOX」は、萩に関する松下村塾や萩焼など18テーマに沿って、実物資料や模型、解説シートを収めたもの。展示物の館外持ち出しを可能にし、学習ツールとして有効に活用されている点が評価されました。博物館の常設展示で同賞を受賞したのは全国初。

萩学なんでもBOX（萩焼）



企画展

発掘された城下町

出土品が語る江戸時代の萩

1月22日まで

江戸時代の萩は、毛利36万石の城下町として栄え、藩の内外から様々な物資が集まりました。萩城外堀から出土した遺物（約80万点）が語りかける萩城下の人々の暮らしや技術を紹介。

●萩再発見ギャラリー
「江戸時代の萩みつけ隊―石垣・土堀の巻―」 11月30日まで

●開館1周年特別公開
「萩市の至宝」
11月11日～30日
国指定重要文化財を特別公開。
「太刀 銘 延吉」、「太刀 銘 光房」、「禪籍 雪峯東山空和尚外集」の3点



▲焼塩壺



▲化粧道具

山口県立萩美術館・

浦上記念館だより

（☎0838・24・2400）

企画展

東アジア中世海道

海商・港・沈没船

11月27日まで

鏡の中の宇宙展

12月10日～3月12日

中国銅鏡の文様には、当時の宇宙観や神仙思想、祈りが表されています。戦国時代から唐代を中心として、銅鏡に表された世界

観を紹介し



▲金銀象嵌鏡（紀元前5～3世紀）

●浮世絵展示

「葛飾北斎 富嶽三十六景」
12月10日～1月9日

●東洋陶芸展示

「鎮魂の造形」
12月10日～3月12日

開館時間 午前9時～午後5時
休館日 月曜日（祝日・休日の場合は翌平日）

入館料 一般1000円、学生800円

情報アラカルト

海外

■韓中日国際陶芸交流展―疎通と拡散―
陶芸家 三輪和彦の作品が展示されます。

とき 11月17日(木)～25日(金)
ところ 大韓民国ソウル ミラル美術館

関東地区

■からたち会関東支部総会

関東地区の萩工業高同窓会。
とき 11月12日(土) 午後3時～

ところ 千代田区平河町 平河会館(03・3263・3992)

■東京たちばな総会

関東地区の萩商業高同窓会。
とき 11月18日(金) 午後6時30分～

ところ 港区芝5-21-7 N EC芝倶楽部205号室
(03・5443・1400)

■東京須佐会

関東地区の須佐地域同郷会。
とき 11月19日(土) 正午～
ところ 港区高輪4-10-56
日立金属 高輪和彊館
(03・3443・1717)

■群馬県立自然史博物館の企画展「ニッポン・ヴンダーカマー 荒俣宏の驚異宝物館」

萩博物館の収蔵資料で、田中市郎(昭和21年没)が発見した珍魚等「田中市郎コレクション」の一部が展示されます。

とき 11月27日(日) まで
ところ 群馬県豊岡市 群馬県立自然史博物館
(0274・601200)

■全国合併市町村 夢フェスタ2005

むつみの千石台だいこん、田万川のゆず吉やちりめん、須佐の赤米醤油が販売されます。

とき 11月2日(水)～6日(日) 午前10時～午後6時(6日は午後5時まで)
ところ 港区東新橋地区 汐留シオサイト
(03・5568・1017)

■内田青虹展―小品と版画―

とき 11月24日(木)～30日(水) 正午～午後6時(30日は、5時まで)
ところ 武蔵野市吉祥寺東町1-1-19 リベストギャラリー
(0422・226615)

■アイランダー2005

全国の島の祭典で、萩諸島の

魅力がPRされます。島の生活の紹介、島ならではの郷土料理の試食コーナーなどがあります。
とき 11月26日(土)、27日(日) 午前10時～午後6時(27日は、5時まで)

ところ 豊島区池袋 池袋サンシャインシティ文化会館2階
(03・3989・3331)

■山口県指定無形文化財萩焼保持者認定記念 野坂康起展

とき 12月13日(火)～19日(月)
ところ 中央区日本橋 日本橋三越本店
(03・3241・3311)

■開窯200年記念展 岡田裕作陶展

とき 12月13日(火)～19日(月)
ところ 所沢市日吉町12-1 所沢西武
(04・2927・0111)

■茨城県陶芸美術館開館5周年記念「日本陶芸100年の精華」

陶芸家 兼田昌尚の作品が展示されます。
とき 1月21日(土)～3月21日(火)

ところ 茨城県等間市笠間2345 茨城県陶芸美術館
(0296・700011)

東海地区

■襲名十二代三輪休雪展

とき 12月7日(水)～13日(火)
ところ 岐阜市日ノ出町2-25 岐阜タカシマヤ
(058・2641101)

■現代陶芸精鋭作家による「2005花器・花入展」
陶芸家 三輪和彦の作品が展示されます。

とき 12月7日(水)～13日(火)
ところ 名古屋市中区 松坂屋本店(052・251111)

関西地区

■開窯200年記念展 岡田裕作陶展

とき 11月15日(火)～21日(月)
ところ 神戸市中央区 ところ 神戸店
(078・2214181)

■金子信彦作陶展

とき 11月30日(水)～12月5日(月)
ところ 大阪市北区 うめだ阪急
(06・63611381)

中国地区

■shooting stars(シューティングスターズ) 大屋窯の濱中孝子のアクセサリー作品が展示されます。
とき 11月6日(日) まで
ところ 島根県益田市西平原町

第52回

日本伝統工芸展

陶芸家 岡田裕、波多野善蔵、波多野英生、止原伸郎、野坂和左、松尾優子の作品が展示されます。

金沢展 11月6日(日) まで
石川県立美術館

岡山展 11月18日(金)～12月4日(日) 岡山県立美術館

松江展 12月7日(水)～12月23日(金) 島根県立美術館

高松展 1月6日(金)～1月22日(日) 香川県立美術館

九州地区

■三輪和彦 白雲展
とき 11月23日(水)～29日(火)

ところ 福岡市中央区 福岡天神・大丸
(092・7128181)

山口県関係

■萩地区(萩高・萩商・萩工・萩光塩)合同同窓会

3年に1回、各校同窓会下関支部の合同。
とき 11月26日(土) 午後6時30分～
ところ 下関市唐戸町唐戸カモ

ンワーフ 3階カモンステージ
(0832・29・5641)

■躍動展(絵画)

萩市の画家藤崎恒頼など、萩市から14人の作品が展示。
とき 11月11日(金)～15日(火)

ところ 長門市東深川803番地の8 長門ウエーブ別館ウエーブホール
(0837・22・1155)

萩市関係

■萩陶芸家協会選抜展

陶芸家 アツツオリ・エリツク、五十嵐茂典、岩佐ゆく、川口裕子、小久保凌雲、厚東孝明、庄圭一郎、中島大輔、永地博正、松尾優子、松野龍司、森野清和、吉岡恵の作品が展示されます。
とき 11月20日(日)まで
ところ 萩市椎原 伊藤博文別邸
問い合わせ 萩市商工課

(0838・25・3108)

■秋山香乃講演会

「山田顕義 法治国家への歩み」
現在、山口新聞に「晋作 蒼き烈日」を連載中の女流作家による講演会です。
とき 11月16日(水) 午後7時

ところ 萩市民館大ホール
聴講料 500円
問い合わせ 萩市生涯学習課
(0838・26・5636)

■藤崎恒頼 新作油彩展

とき 1月12日(木)～17日(火)

ところ 萩市江向 萩郵便局
(0838・22・1155)

■彩陶庵の企画展

◎金子司個展「REST ART (リスタート) カネコツカサノカタチ」
とき 11月19日(金)～27日(日) 午前9時30分
ところ 萩市呉服町1-3 彩

陶庵(0838・25・3110)

■俣宿天十平の企画展

◎群言堂秋冬コレクション
とき 11月11日(金)～23日(水) 午前9時
◎アジア雑貨クリスマスセール
とき 12月10日(土)～25日(日)

ところ 萩市南古萩町33-5 俣宿天十平
(0838・26・6474)

出版情報

■岡田裕 作品集

陶芸家の岡田裕が、自身の作陶約35年、岡田窯開窯200年を記念して制作した作品集。作品77点をすべてカラー印刷で紹介。
A4判/96ページ
問い合わせ 晴雲山窯
(0838・25・3737)

■「HOKKAI」

高樹のぶ子著
「高島北海」、100年の時を超えて、小説家の「私」を魅了する「彼」の秘密は何?アールヌーボーに影響を与え、画家として官僚として日本の近代を深く生きた萩出身の高島北海の謎を探る。
著者は防府市出身、福岡市在住の芥川賞作家。
四六判変形/320ページ
定価 1680円
出版 新潮社

■「萩ものしり博士検定問題集」

萩ものしり博士を目指す人のための問題集。萩の歴史、文化、自然の3分野から計678問が掲載されている。
A5判/194ページ
定価 1000円
問い合わせ 萩博物館
(0838・25・6447)

■阿武町町制50周年記念誌

「ふるさと半世紀」
1955～2005
阿武町の四季の写真や50年間の資料等を掲載。阿武町の映像のDVDや、ポスター、広報あぶの復刻版などの付録もついています。限定100部。
110ページ
定価 3500円(送料込)
問い合わせ 阿武町役場総務課
(08388・2・3111)

萩・石見空港で 石見神楽を定期上演

萩への旅行、帰省の際は、ぜひご覧下さい。
とき 12月から3月まで毎日 上演 午後5時40分～6時
※12月30日～1月3日は休演。
ところ 石見空港ターミナルビル1階到着ロビー
上演者 益田市石見神楽神和会

テレビ・映画情報

■DVD「奥様は魔法少女」
萩の城下町を舞台としたアニメ作品です。
内容 普段は普通の主婦だが、いざというときは魔法少女に変身して、「ワンダーランド」という世界を守っている主人公浅羽嬉子の物語。
価格 5775円(1、2話収録)



東芝エンタテインメント
メディアファクトリー
発売元
販売元

▶萩のまちをモデルにした「ワンダーランド」を見守る主人公

萩沖の島々を巡る

その⑥ 大島 (そのII)

島巡りの旅、前回に引き続き、大島。過疎化が進む離島にあって、ここ大島は若年人口も多く、島の雰囲気も明るく活気がある。漁港から集落の中に足を進めると、あちこちに子供たちの姿が。今回は主に、集落の中を散策、島のふだんの生活風景を覗いてみた。

【写真・文 中澤 さかな】



①対岸の大井から見た大島

本土側の大井から島の南側を撮影。島のライフラインである上水道は、この海底にパイプを敷設して本土から供給されている。



②網の繕い

こちらは、個人経営の漁師さん。主に棒受網や刺し網・釣り漁を営む。取材当日は漁が休みで、ご夫婦で漁具を整備するのどかな様子が、あちこちで見られた。



④棧橋の祠

大漁と沖での安全を願って建てられた棧橋上の祠、ご神体はもちろん恵比寿様。毎年6月に盛大な祭りが開催される。50隻もの漁船が大漁旗を満艦飾に掲げ、島を一周する様子は圧巻。



③子供たち

大島には若い漁師も多いため、子供たちの元気な姿も頻繁に見かける。自宅前の波止場で魚釣りの小学生2人。獲物に入ったバケツを覗くと、なんと20cmを越える大きなカワハギが数匹、立派。



⑥ケーブル局

テレビ電波の共同受信施設が島単独のケーブル局になっている。超ローカルなケーブル局だが、島民のコミュニケーションに一役買っている。



⑤マンホール

島内の道路にあるマンホールの蓋。中央に大島の全景と昇る朝日、上は特産の葉タバコ、下は海と名物「瀬付きアジ」がデザインされている。まさに、この島の豊かさを表す図案。



⑧民家の井戸

島の上水道、現在は本土側からの海底送水になった。各戸にかつて使用されていた雨水利用の井戸が残っている。屋根に降る雨を樋を通じて井戸に溜める方式であることがわかる。



⑦石垣の路地

港から集落に向かう道はいずれも狭く急な坂、漁村でよく見る路地風景であるが、きれいに清掃されていて、ゴミひとつ落ちていないことに感心した。石垣も美しく絵になる。



⑨地蔵

見島をはじめ萩沖の島々を歩くと地蔵がよく目に付く。ここ大島も集落内のあちこちに小さなお地蔵さんを見かける。特徴的なのは、写真のような派手な色の祠に納められて大切にされていること。